

科目番号	科目名	配当年次	授業形態	単位	担当教員
R102	教職概論	1年	講義	2	寺内孝夫
授業概要 教職概論は、教職課程で最初に学ぶ科目の一つで、教職とはどのような職業なのか、教職にはどのような資質・能力が求められているのかを様々な視点、側面から考えることを目的としている。教職の歴史、教員の地位・仕事の国際比較にはじまり、学校という組織の中で活動する教師の仕事を多角的に論じ、日本独特の教職文化、教師のキャリア・ステージと力量形成について教育現場の諸課題を踏まえて考察する。					
到達目標(学習の成果) 1 教職課程の入門講座として、公教育の目的や教員の存在意義を理解するとともに、進路選択に向けた教職の職業的特徴と概要を理解し、これからの学習に意欲を持って取り組む姿勢を確立する。 2 教職をとりまく現状や専門性について、子ども、保護者、社会との関係を踏まえて理解するとともに、今日の教員に求められる役割や資質能力を理解している。 3 教員の職務内容の全体像、教員研修の意義、生涯にわたって学び続けることの必要性について理解するとともに、教員に課せられる服務上・身分上の義務を理解している。 4 学校が内外の専門家、人材と連携・分担し、チームとして組織的に諸課題に対応する必要性、重要性を理解している。					
授業計画					
回	表題	学修内容			
1	教職概論のねらい	教職課程の導入科目を学び始めるに当たって、課程の全体像を把握するとともに、学修に際しての留意点を理解し、積極的に講義に臨む態度を身に付ける。 履修に関するオリエンテーション、教職をめざす理由、「ぼくの好きな先生」			
2	教職の意義	教職の果たす役割と意義について、子どもの人格形成及び国家・社会の有意な形成者育成という二面から考察する。 どのような人達が「先生」なのか、法律に定められた教職としての「先生」			
3	教師像の歴史の変遷	近代日本の教師像の類型を教職観の変遷から分析し、現代に引き継がれる理想の教師像について考察する。 聖職者としての教員、労働者としての教員、専門職としての教員			
4	学習者にとっての教師像	大人にとっての理想的教師像と子どもにとっての理想的教師像は、時代の要請をうけて変遷する部分と、いつの時代にも共通する部分があることについて経験的に学ぶ。 戦前の子どもと教師、現代の子どもと教師、メディアに登場する子どもと教師			
5	教師の役割と職務	教師の職務の事例(中学校教師)を基に、学習指導、生徒指導、学級経営、学年経営、学校経営、部活動指導の現実と課題について考察し、各自の意見を表明する。 教師の法定業務、教師の1日、教師の1年			
6	管理職・主任の役割と職務	学校管理に関する近年の動向、校長・教頭の果たす役割、主任の果たす役割等を分析し、学校組織の複層構造のメリットと課題について考察する。 校長の職務権限、副校長・教頭の職務、主幹教諭・指導教諭・主任の役割			
7	学校運営組織の現実と課題	組織としての学校的意思決定はどのようになされているのか、校長のリーダーシップや職員会議の役割を基に考察する。 学校と教育委員会の関係、職員会議の役割、校長のリーダーシップ			
8	学校に配置されている様々な職種	学校に配置されている教職員は、それぞれの資格・任用条件等を踏まえて教育活動を展開していることを理解し、協働の重要性の認識を深める。 学校の様々な教職員、常勤職員と非常勤職員、分業と協業の学校運営			
9	教師の職場環境	多忙化や孤立化等が指摘されている教師の職場環境の現状と課題について、基本的な知見を得るとともに、改善への手がかりを模索する。 教師の勤務時間と学校外での諸活動、教師の悩みと不安、人間関係の構築力			
10	教職員の服務	教職員の服務の概要について、事例をもとに理解するとともに、「信頼される教師」となるための必要条件としての服務のあり方について考察する。 服務の根本基準、職務上の義務、身分上の義務、分限処分と懲戒処分			

11	部活動の意義と役割	我が国の中等教育において、「部活動」の教育的意義には大きいものがあることを考察するとともに、指導上の留意点について各自の意見を表明する。 部活動とカリキュラム、部顧問の役割と責任、体罰の禁止と部活動指導の基本
12	保護者・地域社会との連携及びチーム学校への対応	学校教育において、教育効果を上げるためには、保護者や地域社会との連携が欠かせないことを理解するとともに、実践基礎力を身に付ける。 学校と家庭・地域社会の連携、開かれた学校づくり、チーム学校運営
13	教師のキャリア形成とライフサイクル	教師のキャリア形成の概要とライフサイクルを様々な事例を基に考察し、各自が望ましい教師像を形成する上での基本的知見を得る。 教師の様々なコースとキャリア・ステージの形成、人事異動とライフサイクル
14	教師の職能向上と研修	教師にとっての研修(研究と修養)は、職能向上に欠かせない要件である。現在の諸制度を理解するとともに、研修の意義について考察する。 初任者研修制度、10年経験者研修、教員免許更新講習、修士レベル化
15	今、求められる教師像	中教審答申『教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について』に盛り込まれた、現在、期待される教員の資質能力についての理解を通して、教職への総合的理解を深める。
<p>準備学修(授業外の自己学修)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 授業計画に示された学修内容に沿って準備学修を深めておくこと。特に、キーワードや専門用語については、参考文献やネット情報等を活用し、確実に調べておくこと。 2 レポートも活用して到達目標の実現を図るので、準備学修を確実に実施すること。 特に、各自の意見を表明する項目については、学修を深め、根拠を示しながら論理的な文でもって記載すること。 		
<p>成績評価の方法・基準(%表記)</p> <p>定期試験 70%(専門用語を使用し、根拠を示しながら論理的な文でもって解答すること。各自の意見を表明する際には、感想でなく、論理的に説明すること。)</p> <p>レポート 30%(ABCD4段階評価)</p>		
<p>教科書 特に指定しない。毎回、ワークシートを配付する。</p> <p>参考書等 中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領(文部科学省) 授業中にも資料を配付する。</p>		
<p>履修上の注意・学修支援</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 出席確認をスムーズに行うため、指定された座席に着席すること。 2 遅刻・早退等不在時間計10分以上は、受講時間確保上、出席したとは認められない。 3 全人教育及びキャリア教育の観点から、講義に際しては礼儀とけじめを重視し、講義の開始時・終了時には起立の上、受講者相互の挨拶を励行すること。 4 望ましい受講環境の維持のため、私語は厳に慎むこと。 <p>受講上の疑問や講義内容に関する質問がある場合は、講義前後に問い合わせると共に、オフィスアワーを積極的に活用すること。</p>		